

<令和4年度 第3教育ブロック ブロック化による学校支援事業 取組内容>

大項目	中項目	小項目	対象		趣旨・内容等	ブロックとしての支援内容						
			校種	タイプ								
I 学力向上	A 基本配付 (読解力及び思考力・判断力・表現力の育成のための取組)	・学びサポーター ・学力向上に向けた取組	小中	一律	○各校における児童生徒の特性に応じたきめ細やかな支援が期待できる学びサポーターの配置にかかる経費や、本ブロックの課題である読解力及び思考力・判断力・表現力の育成等にかかる取組に充当する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒数に応じて全校に予算配付(a)</li> <li>《配布予算》1校あたりの配付額 小中学校とも</li> <li>ア 重点支援校以外(67校)50万円+1,020円×児童生徒数</li> <li>イ 重点支援校 (36校)30万円+1,020円×児童生徒数</li> <li>※2/1現在の児童生徒数 38,901人</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">A:(a)額の8割を活用して実施</div>						
							B 誰一人取り残さない学力の向上 (I-B予算のうち1/2以上を充当し、①~④にあてはまる取組を各校で実施)	①授業改善の取組	小中	選択	○主体的・対話的で深い学びのある授業づくり ○講師招聘・研究推進校への視察等	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">B:(a)額の2割を活用して実施</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援ツール「誰一人取り残さない学力の向上」取組例を学校へ提供(別紙)</li> <li>○取組メニュー例</li> <li>○セットメニュー例</li> <li>○効果検証のための指標例</li> </ul>
								②基礎学力向上に向けた取組	小中	選択	○徹底反復学習の取組 ○コグトレによる漢字学習・計算学習等	
								③読解力育成に向けた取組	小中	選択	○リーディングスキルによる取組 ○新聞や読書ノートの活用等	
④個別最適な学びと協働的な学びの取組	小中	選択	○外部人材の活用(学びサポーターは除く) ○探究的な学習などを通じた多様な他者との協働した学び等									
II 外国籍児童生徒等への支援	日本語指導が必要な児童生徒の在籍する学校への予算配付		小中	希望制	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本語指導が必要な児童生徒の在籍数が多く、市の事業だけでは十分に対応できない学校への支援</li> <li>○各校の日本語指導が必要な児童生徒の状況において下記の取組から選択して実施する。</li> <li>&lt;人的配慮&gt;心のケアのための母語支援員・学びサポーター等</li> <li>&lt;物的配慮&gt;ルビ入り教科書作成・コミュニケーションツール導入・センター校教材購入等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導が必要な児童生徒数に応じて配付(@36,000円+激変緩和分(約5,000円))</li> <li>×対象児童生徒数(146人)</li> <li>※激変緩和分は7/15頃配付</li> </ul>						
III 不登校対策	学級診断アセスメント(hyper-QU)		小6 中1	西成区及び希望校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒にアンケートを行い、それを分析して児童生徒の学校生活意欲を確認し、不登校の予防と対策に活用する。</li> <li>○西成区の小6・中1並びに希望する小6・中1(計約2,000人)を対象とする。</li> <li>○教員が研修にてQUの活用方法を学べる機会を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・hyper-QUの取組 年2回 @920円×2,140人</li> <li>・教員への研修(hyper-QUの分析及び活用について)</li> </ul>						
IV 生活指導			事務局		○小中学生の暴力行為等、学校における問題行動への効果的な対応策について、研修会を実施する。	・全体研修会の実施						
V 生活習慣・学習習慣の確立			小中	一律	○保護者向け啓発プリントの配付や、保護者・地域との連携を通し、生活習慣や学習習慣の定着をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け啓発プリント配付</li> <li>・実践事例の紹介</li> </ul>						

安全・安心な教育の実現

未来を切り拓く学力・体力の向上

学びを支える教育環境の充実

重点

こどもサポートネット(スクールソーシャルワーカーの配置) 2億6,735万9千円  
チーム学校を中心とした、教育分野と区役所など関係機関等による福祉分野との総合的な支援を実施

SNSの活用による児童生徒相談体制の本格実施 1,267万9千円  
いじめなどの様々な悩みをSNSを活用して幅広く受け止める相談体制を実施

教育支援センターの運営 9,064万6千円  
大阪市版教育支援センターを運営し、不登校児童生徒の学習の場を提供(不登校特例校はR6年度設置予定)

大阪市版スクールロイヤー 8,122万7千円  
児童生徒のいじめ・不登校・問題行動や保護者対応等に関し、弁護士による法律相談や直接対応、研修等を実施することで、トラブルの未然防止と早期解決を図る

外国につながる児童生徒の受入れ・共生のための教育推進事業 1億6,754万5千円  
学校生活にスムーズに入るための就学直後のプレクラス実施、および母語支援員配置による授業支援を行う。また、親子母語教室・親子日本語教室、多文化理解授業を実施することで、母語・母文化の保障、学校における多文化共生教育の推進を図る

学力向上支援チーム事業(基本支援:全校 重点支援:90校) 5億5,374万8千円  
支援チームが各学校に対し、データ分析に基づいた実践的指導助言を行うことにより、教員の指導力向上を図る。特に学力向上に支援を要する児童生徒の多い学校に対しては、放課後学習等の重点支援を行う

学校活性化推進事業(英語イノベーション事業) 7億3,090万2千円  
グローバル社会において活躍できる人材育成のため、小中学校9年間で一貫した英語教育を推進

ブロック化による学校支援事業 4億3,823万2千円  
教育委員会事務局を4ブロック化し、ブロック統括者のマネジメントのもと、各学校の学力状況に応じた学力向上に資する効果的な取組みを校長との連携により実施

学校教育ICT活用事業 65億8,853万1千円  
ICT環境の中で、児童生徒の協働的な学びや言語活動、児童生徒の能力・特性に応じた指導等を充実させ、授業の質を向上し、21世紀をたくましく生き抜く子どもの育成を図る

校長経営戦略支援予算 5億1,435万1千円  
校長が十分に裁量を発揮し、「運営に関する計画」に掲げた目標の達成に向け、学校が主体性をもって地域の実情等に応じた取組を推進することを目的として実施

学校現場の負担軽減と校長のマネジメントの確立 1億9,981万3千円  
副校長・教頭補佐(首席)・教頭補助を配置することにより、管理職の負担を軽減するとともに、教頭職の魅力を高めて教頭選考受験者の増加を図る

部活動指導員活用事業 7億8,425万4千円  
中学校の部活動における教員の長時間勤務の解消と指導体制の充実を図るため、部活動指導員(会計年度任用職員)を配置

スクールサポートスタッフ配置事業 3億2,997万円  
教員の負担軽減対策として、授業以外の諸業務を補助的に行うスクールサポートスタッフを小・中学校に配置し、教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備

次世代の学校を担う人材の確保・育成 4,424万6千円  
新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」に対応する指導体制の充実や、若手教員への知識・技能の伝承を図るため、養成・採用・研修を通じた教員の資質向上のプログラムの開発・運営を大学と連携して実施

局

生活指導支援員の配置 道徳教育の推進  
インクルーシブ教育の推進(特別支援サポーター)

学力向上支援サポーター(学びサポーター、理科補助員)事業  
学校力UPベース事業(習熟度別少人数授業、小学校専科指導)

がんばる先生支援事業  
小学校学力経年調査に基づく学習支援事業(学習教材データ配信)  
学校図書館活用推進事業

Ⅲ 不登校対策 216万4,200円  
Ⅳ 生活指導 10万8千円

Ⅱ 外国籍児童生徒等への支援 525万6千円

第3教育ブロック ブロック化による学校支援事業 9,397万円

I 学力向上(学びサポーター、各校の実情に応じた取組等) 8,397万9,020円

V 生活習慣・学習習慣(通信の発行等)

各区

◆安全・安心な教育の実現

<中央区>  
・外国籍児童生徒サポート事業(多文化共生のまちづくり推進事業) 2,682千円  
・外国にルーツのある子どもの保護者サポート事業(多文化共生のまちづくり推進事業) 865千円  
・発達障がいサポート事業 233千円

<浪速区>  
・日本語の指導が必要な児童生徒への支援事業(校長経営戦略予算区執行分) 2,907千円

<大正区>  
・区独自スクールソーシャルワーカーの活用事業 3,089千円  
・学習・登校サポート事業 13,182千円  
・「こどもサポートネット」の実施事業 18,235千円

<西成区>  
・西成区こども生活、まなびサポート事業 69,374千円  
・帰国、来日等こどものコミュニケーションサポート事業 653千円

<住吉区>  
・スクールソーシャルワーカー(SSW)による中学校サポート事業 4,034千円  
・不登校児童、生徒家庭支援(教職員サポート)事業 126千円  
・ヤングケアラー相談窓口(子育て相談室) 予算額(一)

◆未来を切り拓く学力・体力の向上

<中央区>  
・中央区子どもの体力向上支援事業(校長経営戦略予算区執行分) 1,366千円  
・中央区子どもの英語力向上支援事業(校長経営戦略予算区執行分) 905千円  
・民間事業者を活用した課外学習支援事業(校長経営戦略予算区執行分) 107千円

<浪速区>  
・浪速まなび支援事業 9,939千円  
・浪速区中学生の学力向上支援事業(校長経営戦略予算区執行分) 1,230千円  
・浪速区学習意欲向上推進事業(漢検受験支援 校長経営戦略予算区執行分) 672千円

<大正区>  
・民間事業者を活用した課外学習支援事業 105千円  
・基礎学力向上支援事業 874千円

<西成区>  
・基礎学力向上支援事業 7,744千円  
・英語コミュニケーション事業 1,848千円  
・こどもの読書活動推進支援事業 50千円  
・キャリア教育推進支援事業 214千円  
・西成区基礎学力アップ事業(西成まなび塾) 186千円

<住吉区>  
・住吉区自主学習習慣づくり支援事業「すみよし学習クラブ」 193千円  
・自主学習習慣づくり支援(漢字検定受験支援) 2,500千円

<住之江区>  
・すみのえ未来塾事業 4,467千円  
・基礎学力アップ事業 114千円  
・英語力向上支援事業 3,060千円  
・スポーツのまち南港咲洲から発信する体カづくり事業 384千円  
・小中一貫校における特色ある教育環境づくり 360千円

<西区>  
・子どもの英語力向上支援事業(校長経営戦略支援予算区執行分) 1,715千円  
・民間事業者を活用した課外学習支援事業(校長経営戦略支援予算区執行分) 60千円  
・子どもの体力、運動能力向上支援事業(校長経営戦略支援予算区執行分) 1,225千円

◆学びを支える教育環境の充実

<大正区>  
・つづきサポーター(大正教育活動協力隊)の活用事業 予算額(一)  
・はぐみネットの連携強化支援事業 予算額(一)  
・生涯学習の実施支援事業 803千円

<住吉区>  
・学校補助スタッフの活動支援 2,807千円  
・住吉の歴史、文化出前授業 18千円  
・市立小学校教育活動の活性化(読書活動等) 4,477千円

◆その他  
<住之江区>  
・放課後学習チャレンジ教室事業 6,848千円